

学校名 深谷市立八基小学校
校長 笠原 直史 印

1 学校評価のねらい (学校としての受け止め)

本校の教育活動その他の学校運営について、その達成状況を整理して取組の適切さを検証することにより、今後の組織的・継続的な改善を図る。また、学校運営協議会委員や保護者等から教育活動その他の学校運営に対する理解と参画を得て、信頼される学校づくりを進める。

2 評価の方法 (自己評価・学校関係者評価・第三者評価の別、回数、方法等)

- (1) 全教職員から教育活動その他の学校運営に対して年1回評価アンケートを実施する。
 - ①教育課程の編制・実施に関する評価。
 - ②教育課程の編制と実施を支える条件。
- (2) 学校関係者(学校運営協議会委員)から教育活動その他の学校運営に対して年1回評価アンケートを実施する。
 - ①教育活動の状況や学校からの情報提供に関する評価。
 - ②教育環境の状況に関する評価。
- (3) 全保護者から教育活動その他の学校運営に対して年1回、評価アンケートを実施する。
 - ①教育活動の状況や学校からの情報提供、家庭との連携に関する評価。
 - ②家庭環境の状況に関する評価。
- (4) 全児童から学校教育目標への具体的な取組(22の取組)について年3回、自己評価アンケートを実施する。課題のある項目は、重点的に取り組み、再度、評価する

3 評価の結果

(1) 主な指標の変化

「学校が楽しいですか」と答えた児童は、95.5%と答えていた。

学校運営協議会委員への調査では、昨年度以上に、「よくあてはまる」と答えてくださった委員が多かった。特に、学習環境の整備や保護者や地域との連携を図った活動の項目では、90%を超える高い数値であった。

児童への調査では、昨年度評価が低かった、無言清掃の項目では、「たいへんよくできる」と答えた児童は61.7%(前年度46.3%)であり、学校運営協議会と共に取り組んだ「あいさつ」の項目は97.8%と成果が見られた。

また、年3回実施したことから、その都度の課題を見つけ、再度、重点的に取り組んだ結果、22項目、すべての項目が、「大変よくできる」、「できる項目」に該当した。

保護者への調査項目を、児童調査と照らし合わせながら見直した。全20項目中11項目（昨年度9項目）で90%以上のよい評価を得ている。特に、生徒指導面では、「学校では間違っただ行動には厳しく指導していますか」が99.4%（96.3%）であり教師が毅然とした態度で児童と関わっている点の評価をいただいている。また、学習面では、「学校はわかりやすい授業行っている」が100%であった学年が3つの学年あり、授業に関しても評価をいただいている。

（2）学校教育目標の具現化に向けた指標

学校教育目標の具現化に向け、本校で取り組んでいる教育活動や学校運営は概ね高い評価を得られており、学習にも前向きに取り組む、児童も楽しい学校生活を送っている。

児童に対して学校教育目標「かしこく なかよく たくましく」の具現化に向けた22の取組についてアンケート調査を行っている。22の項目中全ての項目が90%以上の評価を得た。児童にとって、具体的な内容であるので来年度も継続して取り組んでいく。

（3）学校研究課題の具現化に向けた指標

学校運営協議会と家庭との連携を図った学力向上を研究のテーマとしている。

「家庭学習で算数と国語の復習することができる」の児童へのアンケートでは、97%（昨年度95.7%）と高い評価を得ていた。さらに、「子どもは、学校での学習内容について、進んで家庭に話していますか」の保護者アンケートでは、昨年度よりも数値が上昇した。（令和元年度70.1%、平成30年度61.7%）

しかし、「子どもは、家庭で家庭学習や読書に進んで取り組んでいますか」の保護者の評価は69.8%で全体的な項目に比較し低い数値であった

4 次年度に向けての展望

- 「学校が楽しい」という児童100%を目指す。そのための授業改善、学習指導の授実等、日々の教職員研修を深めていく。
- 「いじめを許さず、友だちを大切にすることができる」児童が約99%いるが、いまだ、1%の児童が友だちを大切にできるよう取り組み、次年度は100%を目指す。
- 本校の特色ある教育活動として、八基が生誕の地である「渋沢栄一翁の精神を学習活動に活かす」ことが挙げられる。今年度は、保護者は97.8%（昨年度93.2%）であった。次年度は、渋沢栄一翁に関わった実践を地域と共に推進することで、100%を指標とする。そのため、生活科や総合的な学習の時間の教育活動を見直し、八基公民館や渋沢栄一記念館等の連携を更に強化する。
- 次年度も家庭学習について、担任が個別に丁寧な評価をするとともに、長期休業中に親子で取り組める家庭学習の取組を行い、「子どもは、家庭で家庭学習や読書に進んで取り組んでいますか」の保護者アンケートで80%を超えるようにする。

来年度も、児童の学力向上、生きる力の育成に向け、全教職員で取り組んでいく。また、学校評価で課題となっている事項を踏まえ、学校運営並びに教育活動の推進を図っていく。